第 134 回　『わかるように伝えていますか』

香川大学教育学部　特別支援教育領域　教授
香川大学教育学部附属幼稚園，園長
香川大学学生支援センター　バリアフリー支援室　室長
坂井　聡

前回述べたことは、教育的に配慮することができるほんの一部であると思います。アイデア次第で様々な支援を行うことができるのではないかと思うのです。ここで強調しておきたいのは、前回ここで述べた支援は、学校全体で取り組むべきことであるということです。特別支援教育を担当する教員だけが支援する問題ではないということも強く強調しておかなければならないと思うのです。

このように、指導や支援する側からの必要な教育的配慮や支援があり、特に新年度取り組んでいかなければならないと思いますが、それだけでは不十分です。ASD のある児童生徒が、自分で不安を取り除くことができるように、そのためのスキルを身に付けておくことも重要だと考えられるからです。「困ったときの尋ね方を知っている」、「不安であることを伝え、不安を取り除くための情報を得る方法を知っている」等の課題解決のためのコミュニケーションスキルはとても重要だと思います。

そのためには、日ごろの学校生活を通して、必要な支援を依頼する練習をしておくことが重要なのです。その際、気を付けなければならないのは支援を依頼された側の対応です。依頼された先生が、「そのくらいは自分で調べなさい」とか「こんなときどうしたらいいか自分で考えなさい」といった対応をすることがありますが、その対応ではスキルは身につかないということです。尋ねることができることが身につけたいスキルなのです。それができたら、具体的な解決策も含めて丁寧に指導しなければならないということです。自分で考えつかないから尋ねているということを理解する必要があります。「あなたの場合は、その不安を解決するために、これから言うことをメモして、次の機会にこのメモを参考にすればいい」というようなことを具体的に教えていくことが大切だということです。そのためには、周囲で関わる人たちが、本人の気質からくる課題解決をするときの困難さをについて共通理解し、そのときの指導法について共通理解をしておく必要があると思います。このような指導を継続し、自分から尋ねることで課題を解決し、不安から解放されるという経験を繰り返すことが重要なのです。このことが、自分で不安を取り除くためのスキルを身に付けることにつながり、自分の生活をより快適に整えていくことになるのです。

誰にとっても新しい環境は不安なものだと思います。特に ASD のある子どもにとっては、新しい環境を迎えることは、想像以上に不安の大きいものであるということが理解する必要があるでしょう。私たちが、その子どもの視点に立って考えることができたとき、解決のための糸口が見えてくるのではないかと思うのです。子どもたちにとって、人生の大切な学びの時です、人生にたった一度の学校生活なのです。その時期を安心して、楽しく過ごすことができるように、応援したいと思うのです。

～坂井聡先生の紹介～

（（プロフィール））

香川大学教育学部卒業　金沢大学大学院教育学研究科修了　香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部特別支援教育領域　教授。1997 年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。